

第5学年1組 国語科学習指導案

平成28年10月28日(金)

場所 5年1組教室

授業者 仙田 墨

1 単元名 和の文化について調べて、伝えよう

教材名 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる—」(東京書籍5年)

2 単元の目標

- 和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読み、進んで調べてみたいテーマを探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。
(話す・聞く能力)
- 目的を意識して、複数の本や文章を読むことができる。
(読む能力)
- 文章のいろいろな構成について、理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 本単元で扱う言語活動について

本単元は、「C 読むこと」の言語活動例(1)カおよび「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例(2)アを主に取り上げ、言語活動を「マツ先生に、日本の文化のすばらしさを分かりやすくプレゼンしよう。」と設定した。伝える手段をプレゼンテーションと設定することで、児童は日本の文化のすばらしさをアピールしたい、伝えたいという思いをもって活動できると考える。また、目的を意識して資料を読んだり、効果的に資料を活用して説明したりするためには、相手や目的を明確にする必要がある。そのために、9月に赴任したALTとの出会いの場面で、出身のニュージーランドについて紹介をしてもらう。そのお返しとして、日本の文化のすばらしさをALTにわかりやすく伝えようというめあてを設定することで、相手意識や目的意識をもって活動に取り組むことができる。相手や目的が明確になったことで、話の構成や資料の活用の仕方について、児童は思いをもって主体的に学び、内容や目的に合ったプレゼンテーションにしようとするであろう。また、プレゼンテーションの構成や内容を考える際には、教材文で獲得した力である文章構成や効果的な資料の使い方などを活用することができると考え、本言語活動を設定した。

4 単元の評価規準<評価方法>

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
和の文化について調べてプレゼンするという目的を意識して文章を読み、進んで調べたり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとしている。 <ワークシート①②, 発言>	事柄が明確に伝わるように、資料の形式を工夫して説明している。 <ワークシート⑤～⑦, 観察>	自分のテーマを解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を活用している。 <ワークシート③④, 観察>	文章のいろいろな構成について、理解している。 <ワークシート③>

5 単元について

本単元は、「C 読むこと」領域と「A 話すこと・聞くこと」領域という2領域を複合させ、教材文を読んで獲得した力を活用することをねらった単元である。「読むこと」と「話すこと・聞くこと」の2領域を効果的に関連させることで、読む力、話す・聞く力を高めることができる。重点指導事項は、学習指導要領における「A 話すこと・聞くこと」(1)「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」および、「C 読むこと」(1)「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」である。

本教材は、伝統的な文化に関するものの中でも想起しやすい和菓子を題材とした、序論・本論・結論の構成が明確な文章である。また、和菓子を3つの観点から説明するという構成は、その後の調べ学習や発表へとつなげやすい。さらに、写真や図表などの資料が説明に用いられており、発表の際の資料の活用へとつなげることもできる。

説明文単元は、第4学年11月「くらしの中にある「和」と「洋」を調べよう」の学習で、何をどのように比べているのか読み取り、目的に応じて引用したり要約したりする学習を行っている。また、2月「報告します、みんなの生活」の学習で、アンケートで調べた結果をポスターにまとめ分かりやすく報告する学習を行っている。それらを踏まえて、本教材では、①和の文化について調べたことをわかりやすく伝えるために、内容や目的に合わせて資料を用いて説明すること②いろいろな本や資料など複数の資料を読み比べ、目的を意識して読むことの学習を中心に行い、第6学年「町の未来をえがこう」において、①町の未来について考えたことを資料を効果的に活用してプレゼンテーションをする②複数の資料から読み取ったことを目的に応じて活用する学習へとつなげる。

6 児童について

…<個人情報保護のため省略>…

7 指導にあたって

研究仮説に基づき、以下の点を具体的にとりあげ指導する。

【仮説1】 言語活動のゴールに向かう学習過程を工夫し、指導と評価の一体化をすることで、児童一人一人にめあてを達成させることができるであろう。

ア 言語活動のゴール

「マット先生に、日本の文化のすばらしさを分かりやすくプレゼンする。」

相手意識や目的意識をもってプレゼンする言語活動は、児童が主体的に取り組むことができ、教材文で獲得した文章を構成する力や資料を活用する力を活かす場となる。

イ めあての達成に効果的な学習過程

(a) めあてと学習過程の把握において

「マット先生に、日本の文化を伝えたい」という思いを高めるために、事前の学習で外国語活動の時間に ALT によるニュージーランドの文化についての紹介を聞く。「(a) めあてと学習過程の把握」では、学習のめあてをつかみ、見通しをもたせるために、教師が手本となるプレゼンを示す。次に、「和の文化」について、グループでウェビングマップを作り、和の文化についてイメージを広げる。児童の主体的な学びを促すために、単元のねらいや学習内容などを確認しながら、児童と共に言語活動のゴールまでの学習過程を練り上げていく。また、自分のテーマへの活用に向けて、教室に「和の文化」コーナーを設け、関連図書やパンフレット、インターネットから調べた情報を印刷した物などを置き、児童がさまざまな資料を自由に手にとることができるように環境を整える。

(b) 付けた力の獲得と (c) 付けた力の活用において

「(b) 付けた力の獲得」と「(c) 付けた力の活用」を組み合わせた学習過程を設定した。まず教材文を読み、プレゼンする観点や内容、資料の活用の仕方について学習した際には、常にめあてを意識して児童が主体的に学ぶ姿を大切にしたい。そのために、教材文の「文章構成図」とプレゼンをするための「構成メモ」を並列して作成し、教材文での学びをすぐに構成メモに活かせるように学習を進めていく。また、目的を意識して複数の資料を読むことができるように、グループで決めた観点について、一人一つの観点について担当し目的に合った情報を読み取る。

次に、目的や内容に合わせて資料を活用して説明する力を付けるために、まず一人一人が担当の観点について、内容や目的、相手にあった資料の形式を工夫して作成する。さらにプレゼンテーションの練習では、ICTを活用し、自分のグループの発表をふり返ったり、他のグループと発表を見せ合い助言し合ったりすることができるようにする。

以上のような学習過程を設定することで、教材文を読み取り獲得した力をより効果的に活用し、めあての達成に向かっていくことができると考える。

ウ 形成的評価の場面と評価の観点の明確化

(a) めあてと学習過程の把握

- ・ プレゼンテーションをするために、教材文を読もうという意欲をもつことができている。

〈観察、学習計画表（ワークシート①） ウェビングマップ（ワークシート②）〉

(b) 付けた力の獲得

- ・ 教材文から、観点や説明の仕方の工夫について読み取っている。

〈文章構成図（ワークシート③）〉

- ・ 教材文から、文章の構成について理解している。〈文章構成図（ワークシート③）〉

(c) 付けた力の活用

- ・ 目的を意識して、複数の本や資料を読むことができている。

〈ミニプレゼンシート（ワークシート④）〉

- ・ 自分のテーマについて、文章構成をまとめることができている。

〈構成メモ（ワークシート⑤）〉

- ・ 目的や内容に合うように、資料の形式を工夫してプレゼンテーションをすることができている。〈構成メモ（ワークシート⑤）、発表原稿（ワークシート⑥）、観察〉

【仮説 2】 学び合いのあり方と評価方法を工夫することで、児童の思考力・判断力・表現力を育成し、めあてを達成することができるであろう。

ア めあてに向かう学び合いになるための事前の指導

- ・ プレゼンしたい情報について自分の考えに理由や思いをもって、簡単なプレゼンができるように指導する。

イ 効果的な学び合いになるための方法

- ・ ミニプレゼンシート（ワークシート④）を活用し、自分の思いをもって話し合うことができるようにする。
- ・ 同じテーマでグループを作ることで、情報について学び合う必要感を高める。

ウ 学び合いにおけるめあての達成に向かう評価のあり方

(ア) めあての達成についての個の評価

構成メモ（ワークシート⑤）発表原稿（ワークシート⑥）、プレゼンテーションの様子によって、評価する。

- ・ 複数の資料を読み比べ、目的に合った情報を調べることができている。
- ・ 効果的に資料を使って、プレゼンテーションをすることができている。

(イ) めあての達成に向かう学び合いについての個の評価

観察や学び合いを通した振り返り、ワークシート④～⑦、授業後の意識調査で評価する
 <学び合いにおいて求める児童の姿>

- ① ミニプレゼンシート（ワークシート④）をもとに、調べてきたことを自分の言葉で話す。
- ② グループで友だちが調べてきたことや自分が調べたことを比べながら、テーマに合った情報を構成メモ（ワークシート⑤）に整理する。
- ③ 発表原稿（ワークシート⑥）をもとに、プレゼンする内容の順番や資料の形式などについて助言し合い修正する。
- ④ マット先生に日本の文化のすばらしさが分かりやすく伝わるように、資料の使い方や発表の仕方（ワークシート⑦）などについて助言し合う。

8 単元の指導計画と評価規準（全 14 時間）

は、教科書教材を使った学習

	時	目標	主な学習活動	評価				
				関	話	読	言	評価規準<評価方法>
めあてと学習過程の把握	1	本単元のめあてと付けたい力をつかみ、学習の見通しをもつ。	○学習の見通しをもつ。 ・プレゼンテーションとは、どのようなものか知る。 （教師のモデル） ・身近な和の文化についてウェビングマップ作り、和の文化について知り、伝えたい和の文化を決める。 ・言語活動のゴールに向けて、学習の進め方を計画する。	○				【関】単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつことができる。 <観察、発言、ワークシート①②>
				並行読書				
<p>めあて：和の文化について調べて、伝えよう。</p> <p>言語活動のゴール：マット先生に、日本の文化のすばらしさを分かりやすくプレゼンする。</p> <p>付けたい力：複数の資料を読み比べながら、目的にあった情報を読み取る力。 事柄が明確に伝わるように、資料の形式を工夫して説明する力。</p>								

	2	教材文を読み, 新出漢字を書き, 語句の意味を理解する。	○めあてを意識して, 教材文を通読する。 ○新出漢字の学習をしたり, 意味調べをしたりする。				○	【言】新出漢字を書くことができ, 語句の意味を調べている。<ノート>
付 け たい 力 の 獲 得 と 付 け た 力 の 活 用	3	教材文を読み, 文章の構成を捉えることができる。	○文章全体を序論・本論・結論に分けて文章構成図に表す。				○	【言】文章の構成を理解することができる。 <ワークシート③ (文章構成図) ワークシート⑧ (ふり返しカード)>
	4	序論と結論を読み, 要旨を百字程度でまとめることができる。	○序論と結論を読み, 要旨をとらえ, まとめる。				○	【読】要旨をまとめることができる。 <ワークシート② (文章構成図) ワークシート⑧ (ふり返しカード)>
	5	プレゼンの序論と結論を構成メモ(ワークシート⑤)にまとめることができる。	○グループで和の文化について調べた感想から, 構成メモに序論と結論をまとめる。				○	【話聞】構成メモに序論と本論をまとめることができる。 <ワークシート④ (構成メモ) ワークシート⑧ (ふり返しカード)>
	6	本論を読み, 書かれている観点や内容について文章構成図にまとめることができる。	○文章構成図を手がかりにして, 観点や内容について読み取る。				○	【読】目的を意識して本論を読み, 観点や内容を読み取ることができる。 <ワークシート② (文章構成図), 観察, ワークシート⑧ (ふり返しカード)>
	7	グループのテーマについて調べたことを, ミニプレゼンシート(ワークシート④)にまとめることができる。	○メモした付箋を利用して, 分かったことをミニプレゼンシートにまとめて, グループ内で紹介できるように準備をする。				○	【読】目的を意識して本や資料を読み, まとめることができる。 <ワークシート③ (ミニプレゼンシート) ワークシート⑧ (ふり返しカード)>

8 本 時	グループのテーマについて調べた事柄をグループ内で紹介しプレゼンする観点を3つ(4人グループは4つ)決めることができる。	○調べた事柄についてグループ内で紹介し、情報を整理してプレゼンする観点を話し合っで決める。 ○それぞれの観点の担当を決めて、プレゼンする計画をたてる。		○		【話聞】必要な情報を選んだり組み合わせたりして、観点を考えることができる。 ＜ワークシート④(構成メモ)、観察、ワークシート⑧(ふり返りカード)＞
9	担当の観点についての内容を決め、構成メモを作ることができる。	○担当の観点について内容を決めて構成メモを完成させる。		○		【読】目的を意識して本や資料を読み取ることができる。 ＜ワークシート④(構成メモ)ワークシート⑧(ふり返りカード)＞
10 11	説明に必要な資料を考え、作ることができる。	○教材文を読んで、資料の効果について考える。 ○構成メモをもとに、発表の内容に合った資料の形式(グラフ, 写真, 具体物…)を工夫する。		○		【話聞】目的や内容にあった、資料を考え、作ることができる。 ＜ワークシート④(構成メモ)、表現物、ワークシート⑧(ふり返りカード)＞
12	構成メモをもとに、発表原稿(ワークシート⑥)を作ることができる。	○発表の構成メモをもとに、発表原稿を作る。		○		【話聞】構成に沿って、発表原稿を作ることができる。 ＜ワークシート⑤(発表原稿)ワークシート⑧(ふり返りカード)＞
13	説明の仕方や資料の使い方などについて、グループで話し合いながら練習することができる。	○説明の内容や発表資料の使い方などについて、グループで助言しあいながらプレゼンテーションの練習を行う。		○		【話聞】資料の使い方などについて、グループで助言しながら練習している。 ＜観察、ワークシート⑥(チェックシート)ワークシート⑧(ふり返りカード)＞
14	伝えたいことを意識して、資料を用いて説明することができる。	○プレゼンテーションをし、学習を振り返る。		○		【話聞】目的を意識して資料を用いて発表している。 ＜観察、ワークシート⑧(ふり返りカード)＞

9 本時の学習（8 / 14 時間）

(1) 目標

必要な情報を選んだり組み合わせたりして、観点を考えることができる。

(話す・聞く能力)

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援	評価 <評価方法>
<p>1 本時の学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇情報を整理して、プレゼンする観点を考えよう。</p> </div> <p>2 KJ法を使い情報を整理して、発表する観点を決める。</p> <p>① ミニプレゼンシートを使って、集めた情報を出し合う。</p> <p>② 情報を分類し、分類した情報グループにタイトル（観点名）を付ける。</p> <p>*学び合いが成立しているグループの様子を参考にする。(全体)</p> <p>③ マット先生にプレゼンする観点を選び、担当の観点を決める。</p> <p>(話し合いの例：和食グループ)</p> <p>C1：おせち料理には、1年間の幸せを願う気持ちが込められているんだよ。</p> <p>C1：お寿司は、昔保存食だったんだよ。</p> <p>C2：大晦日の年越しそばも、幸せを願う気持ちが込められているんだよ。</p> <p>C2：お寿司は江戸時代には、屋台で簡単に食べることができたんだよ。</p> <p>C3：寿司は中国から伝わった食べ物なんだよ。</p> <p>C1：じゃあ、この2つは「幸せを願う和食」グループでまとめよう。</p> <p>C3：この3つは「お寿司の歴史」にしよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>↓ プレゼンする観点を決める学び合い</p> </div> <p>「幸せを願う和食」「お寿司の歴史」「和食の調味料」「和食の器」「調理器具」</p> <p>C1：どれをプレゼンしようか。</p> <p>C2：「お寿司の歴史」がいいんじゃない。</p>	<p>・めあてに向かって主体的に取り組むことができるように、単元の流れを掲示し本時の位置づけを確認する。</p> <p>・集めた情報を整理するために、KJ法を活用する。</p> <p>・思いをもって話し合いに参加できるように、事前にミニプレゼンシートを使ってプレゼンできるように指導しておく。</p> <p>・話し合いがスムーズに進まないグループの手本になるように、学び合いが成立しているグループの様子を全体に伝える。</p> <p>・早くできた班は、単元の流れを見通し、それぞれの観点についての内容を選び、構成メモにまとめるようにする。</p>	

めざす児童の姿

- ・相手や目的を意識して、根拠をもってプレゼンする観点について話し合っている。

<p>C3 : マット先生、お寿司好きって言ってたね。 C2 : お寿司を食べるときに、思い出してくれるといいな。 C1 : 調理器具は？ C2 : 羽釜とか昔の道具を伝えても分かるかな？ C3 : でも、和食を作る道具には職人さんのくふうがあって知ったらビックリすると思うよ。</p> <p>3 本時の学習をふりかえる。</p> <p>◆日本の文化のすばらしさを伝えるための観点を考えることができた。(◎○△)</p> <ul style="list-style-type: none"> その観点を選んだ理由を書きましょう。 「マット先生に、和食に込められた思いを知ってもらって和食を食べてほしいから。」 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に合った内容を考えることができるように、情報がたくさんあるものが良いということではないことを押さえる。 一人一人が本時の学びを振り返ることができるように、視点を示して、振り返るようにする。 	<p>【話聞】必要な情報を選んだり組み合わせたりして、プレゼンする観点を考え決めることができる。 <ワークシート⑤（構成メモ）、観察></p>
--	--	--

(3) 評価

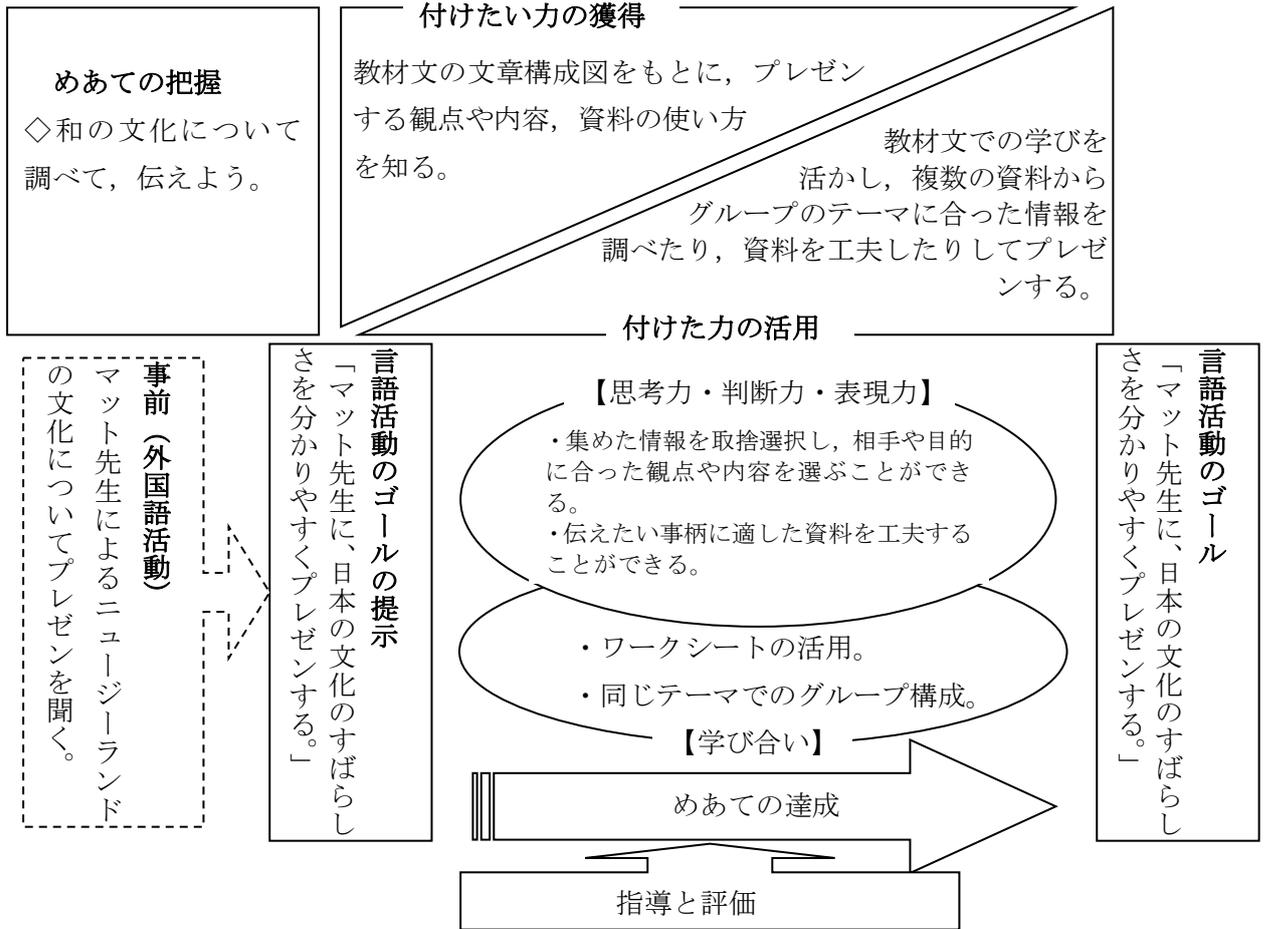
	十分満足できると判断される 児童の具体例	概ね満足とされる 児童の具体例	支援を必要とする 児童への指導の手立て
話・聞	<p>友達と自分の意見を比べながら聞き、情報を整理して目的に合った観点を考え決めることができる。</p> <p>その観点を選んだ理由について、自分の言葉で書くことができる。</p> <p><ワークシート④（構成メモ） ワークシート⑧></p>	<p>友達と自分の意見を比べながら聞き情報を整理して、目的に合った観点を考え決めることができる。</p> <p><ワークシート④（構成メモ） ワークシート⑧></p>	<p>情報を整理できない児童には、教師が聞き取りを行い、自分の情報と似ている情報を探すよう助言する。</p>

(4) 研究の視点

【仮説2】めあての達成に向かう学び合いのあり方

児童は、ミニプレゼンシートをもとに、自分の考えや思いをもって学び合うことができているか。

単元構造図



<p>評 価</p>	<p>(a) めあての把握 ・単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつことができる。</p>	<p>(b) 付けたい力の獲得 ・教材文から、観点や説明の仕方の工夫について読み取っている。 ・教材文から、文章の構成について理解している。</p> <p>(c) 付けた力の活用 ・目的を意識して、複数の本や資料を読むことができている。 ・自分のテーマについて、文章構成をまとめることができている。</p>	<p>・目的や内容に合うように、資料の形式を工夫しプレゼンテーションができることになっている。</p>
------------	--	---	---